

平成26年度「手づくり郷土賞」応募者の取組を紹介します！
～中部地方整備局管内で8件応募がありました～

「手づくり郷土賞」は、社会資本と関わりをもつ地域づくりの優れた取組を表彰し、好事例として広く全国に紹介することで、個性的で魅力ある地域づくりに向けた取組が進むことを目的として昭和61年度に創設され、平成26年度で29回目の開催となります。今回は、応募頂いた取組について概要を紹介します。

■平成26年度「手づくり郷土賞」応募概要（中部地方整備局管内）

＜一般部門＞

○市街地に残る湿地と生息する動植物の保全活動

○中川運河水辺再生への挑戦（魅力ある水辺空間の創出）

○豊橋の路面電車（愛称「市電」）を活かしたまちづくり

○新加納立場地区 ～カエル伝説でまちおこし～

○宮川流域エコミュージアム

＜大賞部門＞

○市民の力でナショナルトラスト「産業遺産・愛岐トンネル群」敷地を取得！
さらに活動を推進します

○高校レストラン「まごの店」

○みらいにつなぐ豊田川 ～地域の絆と世代の輪～

■問合せ先：中部地方整備局企画部広域計画課

課長	なかむら	かずてる
課長補佐	しばた	まさみ
	柴田	雅洋

直通TEL：052-953-8129

平成26年度 手づくり郷土賞 応募者取組箇所 地図

一般部門② 愛知県名古屋市

件名: 中川運河水辺再生への挑戦
(魅力ある水辺空間の創出)

団体: 一般社団法人中川運河キャナルアート

一般部門④ 岐阜県各務原市

件名: 新加納立場地区
～カエル伝説でまちおこし～

団体: 新加納まちづくり会

大賞部門① 愛知県春日井市

件名: 市民の力でナショナルトラスト「産業遺産・愛岐トンネル群」敷地を取得! さらに活動を推進します

団体: 特定非営利活動法人
愛岐トンネル群保存再生委員会

一般部門① 愛知県名古屋市

件名: 市街地に残る湿地と生息する動植物の保全活動

団体: 白玉星草と八丁トンボを守る島田湿地の会

一般部門③ 愛知県豊橋市

件名: 豊橋の路面電車(愛称「市電」)を活かしたまちづくり

団体: とよはし市電を愛する会

大賞部門② 三重県多気町

件名: 高校生レストラン「まごの店」

団体: 三重県立相可高等学校 調理クラブ

一般部門⑤ 三重県伊勢市・多気町・明和町・大台町・玉城町・度会町・大紀町

件名: 宮川流域エコミュージアム

団体: 宮川流域案内人の会

大賞部門③ 静岡県浜松市

件名: みらいにつなぐ豊田川～地域の絆と世代の輪～

団体: おー川・桜の水辺の会



白玉星草と八丁トンボを守る島田湿地の会/名古屋市天白土木事務所

①社会資本の概要

名古屋市東部丘陵にある島田緑地は、天然の湧水がある湿地を始め、池、樹林地があり、平成6年に都市公園法に基づく都市緑地として告示されました。区画整理で樹林地が宅地化される中、当緑地には名前に名古屋市内の地名がつけられている世界最小級のハッチョウトンボ（準絶滅危惧・名古屋市RD）や、この地方の湿地にしかみられないシラタマホシクサ（絶滅危惧Ⅱ類・環境省RD）など、貴重な動植物が生息生育しています。湿地は市民の手入れと名古屋市によって維持管理されており、市民の解説による自然観察会が毎年開催されています。



シラタマホシクサの群衆



シラタマホシクサ

②取組の背景、取組概要と創意・工夫

名古屋市内の東部丘陵には、この地方に特有な地質のもと、かつては湿地を含む樹林地が数多くありましたが、宅地化がすすみ、現在湿地は市内に数か所しか残っていません。湿地に特有な動植物はレッドデータリストに掲載されている種が多くありますが、こうした貴重な動植物を絶滅から防ぐためには、外来種の駆除や、除草や除伐により湿地から樹林地への遷移を人為的に食い止める必要があります。そこで、会のボランティア活動と名古屋市の協働によるきめ細かい手入れによって湿地が維持されてきました。会は選択的除草や、アメリカザリガニやウシガエルなど外来種の除去を月1回の活動で行っています。市は会の指導のもと、湿地の面的な草刈りを年1～2回行っています。



ボランティア活動

③地域への成果や波及効果等

自然観察会を会と名古屋市の協働で実施しています。市はイベントの広報や受付を行い、会は子ども達を含む自然観察会の参加者に、湿地や動植物の重要性を伝えています。

・島田緑地にはハッチョウトンボを始め多くの種のトンボが生息しており、みどころの一つとなっていますが、トンボの種類や数が次第に減ってきています。そこで、島田緑地の湿地の特徴を把握し、今後の管理に活かすため、専門家と会の指導のもと、市民参加でトンボの生息調査を行うなど、自然環境調査を実施しました。



樹林地管理計画策定のための検討会



自然観察会の様子



八丁トンボ



専門家を招いて昆虫の調査の実施

◆所在地：愛知県名古屋市

◆活動主体：白玉星草と八丁トンボを守る島田湿地の会

◆対象となる社会資本：島田緑地

※管理者：名古屋市天白土木事務所

①社会資本の概要

中川運河は、名古屋港と旧国鉄笹島貨物駅とを結ぶ運河として建設され、昭和5年に開通、水運による物流の軸として名古屋の経済・産業の発展に大きく貢献しました。全延長8.2Km、最大幅員91mの規模を有しており、当時は「東洋一の大運河」と伝えられていました。その後、水運物流の減少を背景に、中川運河の果たす役割を見直し、平成24年に名古屋市と名古屋港管理組合が共同で「中川運河再生計画」を策定しました。運河再生に向けた取り組みの一環として、当時の面影を残す倉庫群や、市街地における貴重な水辺空間を活かしたイベントが地域住民やNPO法人等の手により積極的に行われています。



倉庫を活用したアートイベント



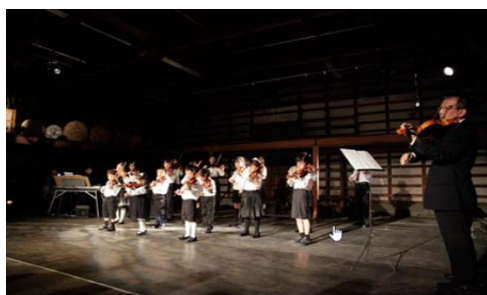
水辺空間を活用したポートイベント

②取組の背景、取組概要と創意・工夫

名古屋市都心西部に位置し、水運物流の中心として栄えた中川運河を地域住民の力で再生し、その魅力を広く発信することを目的として平成22年より、運河沿いに立ち並ぶ倉庫内外、水上を活用したアートイベントの開催、住民参加による中川運河の清掃活動等の活動を通じて魅力ある運河空間の発信を図っています。アートイベントの開催にあたっては、名古屋市中川区出身の世界的アーティスト浅井信義氏を中心に国内外で活躍する若手作家と協働し、倉庫の壁を活用したプロジェクションマッピングや水辺空間を生かしたコンサート等を開催し、中川運河の魅力を発信しています。また、豊かな水辺空間の創出に向けて地域の造園業者等や地元住民の協力を得て、運河沿いにコスモスの植栽を行うコスモスプロジェクトや清掃活動を実施し、中川運河の魅力創出にむけて継続的な取り組みを図っています。



コスモスプロジェクト



倉庫を活用したバイオリン演奏会

③地域への成果や波及効果等

毎年住民とともに辺運河周辺での清掃活動が続け、その後コスモスの植栽活動を実施しています。清掃をすることで住民らが運河への愛着を持ち、コスモスが開花するころにアートのワークショップに参加する等、住民が積極的に運河に接する機会が着実に増加しています。アートワークショップには小学生から60歳代まで幅広い年代からの参加があり、アートを通じた世代間交流の場となっています。



地元住民とのイベント「運河について語ろう」



アートワークショップ

喜びの声



<受賞者>

一般社団法人中川運河キャナルアート
理事長 松林 正之

<コメント>

市民の方々にやすらぎの場を提供できる中川運河に向けて、環境整備が進むとともに、アーティストの方々が日常的に活動できる場が確保でき、中川運河沿岸から斬新な作品やアイデアが次々と生まれる日が一日も早く来ることを願っています。中川運河キャナルアートは今後も頑張ります。ご指導・ご支援いただきますよう、心よりお願い申し上げます。

<活動内容>

アートイベント、清掃・植栽活動等

<活動の経緯>

平成21年 中川運河キャナルアート委員会発足

平成22年 Project No.Zero 開催

(以後毎年開催)

平成24年 一般社団法人

中川運河キャナルアート設立

平成25年 中川運河再生シンポジウム2013開催

◆所在地 : 愛知県名古屋市

◆活動主体 : 一般社団法人 中川運河キャナルアート

◆対象となる社会資本 : 中川運河

※管理者: 名古屋港管理組合

①社会資本の概要

豊橋の路面電車は大正14年に開業し、民間事業者である豊橋鉄道(株)が運行していますが、市民からは「市電」の愛称で親しまれています。終戦直前の大空襲による被害からいち早く復活し、モータリゼーションの進展により全国の多くの都市で路面電車が廃止されるなかで、東海地方唯一の路面電車として90年近く市民の足として走り続けてきました。近年、路面電車は環境に優しい乗り物として注目されており、移動手段としてだけでなくまちづくりとの連携など、幅広い活用が期待されています。



「ほATTRAM」



「市電のある風景」水彩カレンダーの発行

②取組の背景、取組概要と創意・工夫

「とよはし市電を愛する会」は、全国で路面電車が衰退する中、豊橋駅前大通りの整備計画に伴い、市電に関心を持つ一般市民が、「市電を活かしたまちづくり」のテーマをもとに、平成2年に設立しました。この会は「市電を活かしたまちづくり」を進める上で、関係者である豊橋市と市電の管理者である豊橋鉄道をつなぐ役割を担っており、環境問題や福祉問題、都市計画、公共交通政策といった見地から、実践活動を重視した市民活動を展開し、平成11年の路面電車サミットの開催や市民、企業などの多くの方々からL R V導入に向けた基金を募り、平成20年のL R V「ほATTRAM」の導入実現に貢献しました。現在、まちの景観としてとらえる「見る市電」、乗車促進をはかる「乗る市電」、まちづくりに活かす「考える市電」を3つの柱として活動を展開しています。毎年4月10日を「市電の日」、6月10日を全国「路電の日」として趣向を凝らしたイベントを展開しているほか、市電をP Rする「豊橋市電唱歌」の制作や「市電のある風景」を刷り込んだカレンダー・絵ハガキの作製、機関紙「市電文化」の発行、市民版小冊子「古くて新しい路面電車」の発行、全国の市電の走る町への視察研修など多彩な活動を展開しています。



「見る市電」（納涼ビール電車）



「考える市電」（第4回路面電車サミット99豊橋）

③地域への成果や波及効果等

「とよはし市電を愛する会」では、設立以来、市電の日のイベントとして毎年会独自の企画運営で地元豊橋市の様々な団体と連携した「国際交流電車」「コーラス電車」「孫ころ電車」といったイベント電車を運行し、イベントを通して長年市民との交流を行い、人気を得てきました。更に平成23年からは豊橋鉄道、豊橋市と連携し、規模を拡大した「ええじゃないか豊橋 市電の日イベント」を実施しており、多くの市民の参加がありました。



「孫ころ電車」



ミニほATTRAM乗車

喜びの声



<受賞者>

とよはし市電を愛する会

会長 伊奈 彦定

豊橋鉄道株式会社

代表取締役社長 伊藤 正雄

<コメント>

おりしも市電開通90周年で、とよはし市電を愛する会設立25年の節目の年に、栄誉ある賞を受賞し一同感激しております。また、7月には第14回中部地区路面電車サミットを豊橋で開催する予定で、これからも次世代のために「市電を活かしたまちづくり」にますます磨きをかけてまいります。

<活動内容>

「市電の日」のイベント開催、全国市電の走る町への視察・研修、機関誌、カレンダー等の発行

<活動の経緯>

平成 2年 設立

平成19年 豊橋市へL R V市民基金贈呈

◆所在地：愛知県豊橋市

◆活動主体：とよはし市電を愛する会

◆対象となる社会資本：豊橋鉄道東田本線

※管理者：豊橋鉄道株式会社

①社会資本の概要

当地区は、中山道69宿の「鵜沼宿」と「加納宿」の間に栄えた間の宿です。関ヶ原の戦いの戦功により旗本坪内利定が設置した新加納陣屋が存在したことで知られています。明治に入り陣屋は解体されましたが菩提寺少林寺を始め、趣のある建造物、神社など歴史的な景観資源が多く残されています。

平成22年度からは新加納地区都市再生整備事業計画を実施しており、この事業にあわせ、地域のまちづくり会が発足しました。地域に伝わる『カエル伝説』を軸に次世代を担う子ども達を巻き込んで新しいまちおこしを始めると、見守り隊の活動、地域の祭りなどにも関心が高まり、世代を超えた住民の絆、「ふるさと」への愛着が深まっています。



新加納まちづくり会が開催する勉強会



「カエル伝説」を持つ日吉神社の狛カエル

②取組の背景、取組概要と創意・工夫

「新加納まちづくり会」は、地域が持つ歴史的資産に目を向けた活動であり、自分たちの住む地域を自分たちの手でより良くしていきたいという思いで、未来を担う子供達を巻き込み、新しいまちおこしに取り組んでいます。具体的な活動は、毎月1回の定例会を行い、その他には講演や視察なども行う歴史勉強会、地域の子供達に「たけとんぼ」などの遊びを伝える活動を行っています。年に3回、ニュースや事業計画、新加納にまつわる歴史コラムなどを掲載した瓦版を発行しています。まちづくり会の中でも担当部門があり、会員相互の知識や活動を共有する総会「まちづくりの集い」が毎年6月に開催されています。

地域には子どもを地域で守り育てよう、ふるさと新加納の歴史を伝えていこうという活動が多く存在しています。小学生の登下校を見守る「見守り隊」の活動や神社の例祭を支える児童の保護者役員、自治会の活動は多くの大人たちの活動によって支えられています。



伝承遊びを伝えるイベント



「見守り隊」の活動

③地域への成果や波及効果等

地域の日吉神社には古くから伝わる「かえる伝説」が存在します。4月には神社の例祭「げえろ祭」が行われており、12年前からは中学生が参加する「中学生みこし」が登場しています。中学生が地域に関わりを持つ土台が少しずつ積み上げられており、今回中学生を巻き込んだ「日吉かえるプロジェクト」が展開されました。中学生がカエルのイラストとキャッチコピーを考案し、ユニークで個性ある作品の中から優れたものとして選出したものをポケットパーク「けろっと広場」のオブジェとして取り入れました。中学校のプロジェクト委員会では、カエル伝説を新たに解釈し物語を制作するなど、子ども達が主体的にまちおこしに関わりました。中学生が命名した「けろっと広場」には「ひよしかえるものがたり」のプレートが設置されています。



ポケットパーク「けろっと広場」の完成



「日吉かえるプロジェクト」



【中学生みこし】



かえるプロジェクトで制作したクッキー

◆所在地：岐阜県各務原市

◆活動主体：新加納まちづくり会

◆対象となる社会資本：中山道 間の宿 新加納

※管理者：各務原市

宮川流域案内人の会/三重県伊勢市・多気町・明和町・大台町・玉城町・度会町・大紀町

①社会資本の概要

宮川流域は宮川と大内山川他の支川、伊勢市他6町で構成されています。その中でも宮川は、国土交通省の全国一級河川水質調査において平成3年から平成23年の21年間で最も水質が良好な河川に11回位置づけられ、「清流日本一」として観光資源や地域の特産品にも生かされています。宮川流域には、清流に育まれた自然、歴史、文化、産業、伝統があり、上流部は大杉谷をはじめ、豊かな自然に恵まれ、中流部では川霧に育まれるお茶などの産業や鮎漁なども盛んです。下流部においては、お伊勢参りの伝統が息づき、柳の渡し跡、桜の渡し跡が残され宮川の渡し船で旅人をお伊勢さんへといざなった面影が残されています。また、宮川流域の農業用水となる宮川用水施設や宮川ダム、三瀬谷ダムなども観光資源となっています。



宮川の源流部



自然豊かな宮川中流部

②取組の背景、取組概要と創意・工夫

全国的にも清流として名高い宮川を中心とした流域全体を「宮川流域エコミュージアム」として、「人と自然の共生」を目指して流域に点在する豊かな自然、歴史、伝統文化、産業の遺産といった身近で魅力的なフィールドにおいて、地域の思いを伝えるため、平成18年に設立された宮川流域案内人の会が中心となって活動してきました。宮川流域の自然や歴史、伝統的な暮らし、川を使った遊びなどを知識として伝えるだけでなく、その背景にあるメッセージをわかりやすく伝えています。

宮川流域案内人は、自然観察、田舎暮らし、遺跡紹介、カヌー、歌、俳句などのそれぞれの個性や特技を活かし、年間80回程の行事を開催し、宮川流域を舞台に様々な形で宮川流域の魅力を発信するために活躍しています。これらは、宮川や宮川流域における自然、歴史、文化、自らが暮らす地域に対する愛着や誇りが活動を長く続ける原動力になっており、そんな宮川流域案内人の企画する行事を楽しみにして参加される方がたくさんみえます。



親子で参加、宮川ディキャンプ



昔ながらの川遊びを体験

③地域への成果や波及効果等

行事への参加者も年々増加し、三重県内だけでなく全国各地からも参加され、宮川流域の良さを体験していただくだけでなく、各地域に持ち帰って、自分たちの地域を見つめ返すきっかけともなっています。また、地元住民以外は普段は人が立ち寄りにくい上流部の過疎化した地域での企画や、親子で参加や、地域のお年寄りを交えた行事などもあり、幅広い年代を通して地域の良さを知ってもらうことができたり、地域の特産品をPRするきっかけにもなっており、地域の活性化にもつながっています。



案内人養成講座のフィールドワーク



宮川を踏破、宮川ウォーク

喜びの声



＜受賞者＞
宮川流域案内人の会
会長 巽 幸則

＜コメント＞
この度は、手づくり郷土賞という栄えある賞をいただき、ありがとうございます。我々、宮川流域案内人は自然、歴史、文化にあふれた宮川を、そしてそのような宮川に育まれた流域の人たちを誇りに思っています。そんな宮川の、流域の人たちのためにも、初心を忘れずこれからも活動していきたいと思います。

＜活動内容＞
源流から河口まで歩く宮川ウォーク、昔の川遊びを伝える
宮川親子ディキャンプ、その他様々な宮川流域案内人企画

＜活動の経緯＞
平成18年 設立
年間行事件数 約80回

◆所在地：三重県伊勢市ほか6町地内

◆活動主体：宮川流域案内人の会
行事案内：宮川流域ルネッサンス協議会 <http://www.miyarune.jp>

◆対象となる社会資本：一級河川宮川流域
※管理者：流域1市6町

市民の力でナショナルトラスト「産業遺産・愛岐トンネル群」敷地を取得！ さらに活動を推進します。

愛知県春日井市

特定非営利活動法人 愛岐トンネル群保存再生委員会

①社会資本の概要

「愛岐トンネル群」を含めた国鉄中央線は、明治期に造られ、ものづくり中部の黎明期の資源輸送の大動脈として活躍していました。しかし、その一角を担った軌道敷とトンネル群が廃線となった後、半世紀にわたり忘れ去られていました。2006年に市民の手によって発見され、その後の調査で愛知・岐阜の両県にまたがる全長8キロの廃線には明治期のレンガ製トンネル13基が現存していることが判明、貴重な近代化産業遺産として年間10日間限定の公開には3万人が押し寄せるまでに育ちました。廃線の再活用を通して「地域（観光）資源の発掘」「地域文化の掘り起こし」など100年前の施設を100年先の未来に引き継ぐために、市民自らの熱意と工夫が全国最多の貴重な隧道群の再生を目指しています。



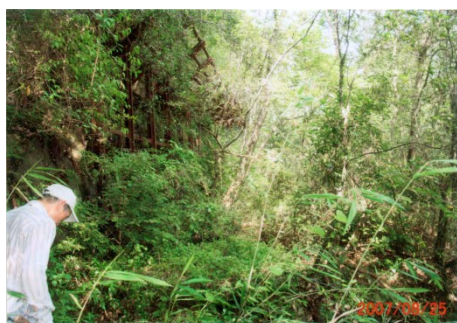
定光寺駅



S L

②取組の背景、取組概要と創意・工夫

2006年、崖の中腹の藪の中にレンガ製トンネルを発見した市民ら47名が、毎週木・土曜日に集まり廃線上の繁茂する藪の整理を開始しました。愛知県と岐阜県にまたがる全長8キロの廃線のうち、愛知県側1.7キロの開拓・整備を進めています。2008年「廃線の再生現場見学会」を開催し、その後毎年春・秋に特別公開を実施しており、2013年までに延べ11万人を超える人々に愛岐トンネル群と大自然のコラボレーションを楽しんでいただきました。また同時に、2009年から愛知県側廃線5haを民間地権者から市民の浄財で買取る「ナショナルトラスト運動」を開始し、5年の歳月を経て、今年6月ナショナルトラスト「産業遺産・愛岐トンネル群」敷地を取得できました。さらに愛知県側廃線に続き、岐阜県側に連なる一体の貴重な産業遺産としての活用に向けて鋭意活動に推進しています。



整備前



整備後

③地域への成果や波及効果等

昭和初期頃まで駅弁に付属して売られていた陶器製お茶容器の「汽車土瓶」のカケラが廃線で見つかったことをきっかけに、当時の多治見市が汽車土瓶製造の主要拠点であったことなど全国一の窯業地帯のメリットを活かし、窯業者と連携して明治期の汽車土瓶の復刻・販売を始めました。



「汽車土瓶」

春・秋限定での公開は、個人レベルの参加が主流でしたが、昨年からは旅行代理店主催のバスツアーが入り始め、今秋の期間中には4業者から計18台によるツアーが実施される予定です。特定の催事を除き春日井市内へこれだけのツアーが実施されるのは珍しいとのこと。

今年7月、市内の小学生生徒による社会見学が行われました。学校の公式行事として初めての実施されました。今後、子供たちへの教育・学習の場として積極的に協力していきます。



「市民公開」



平成24年度「手づくり郷土賞」
一般部門受賞

◆所在地：愛知県春日井市鳥居松町2-81

◆活動主体：特定非営利活動法人
愛岐トンネル群保存再生委員会

http://www.geocities.co.jp/ag_tunnel/index.htm

◆対象となる社会資本：
旧国鉄中央西線愛岐トンネル群（愛知県内分のみ）

①社会資本の概要

「まごの店」は『料理家を目指す高校生の夢を、建築家を目指す高校生が形にする！“その夢”を多気町やふるさと村といった地域が応援する！』というコンセプトで全国に例のない高校生が経営するレストランとして生まれました。

平成18年度には手づくり郷土賞地域整備部門を受賞し、その後、メディアに取り上げられたことで全国的に取り組みが知られることとなりました。現在では県内外からの視察やお客様があるなど、高校の研修施設・観光施設両面を備えた、多気町の主要な拠点となっています。



レストランは連日大盛況です



高校生レストラン「まごの店」

②取組の背景、取組概要と創意・工夫

「まごの店」は相可高校食物調理科の研修施設として誕生し、同校調理クラブの活動拠点として、部員が日常の管理を行っています。土日祝日は料金徴収するレストランを運営し、食材や事務用品などの資材の購入費だけでなく、年間約140万円かかる電気代などの施設のランニングコストをまかなっています。

料理の提供にあたっては、町内で採れる伊勢いもなどの野菜や、松阪牛、尾鷲の魚など地産の食材使用を基本として、地域の農業・畜産業・漁業の活性化、地産地消の推進に努めています。

「まごの店」ができてから調理クラブの部員たちは、実際に一般のお客様を相手にする緊張感と料理を食べていただける達成感から技術力の向上が著しく、メニューは現在4種で、コースメニューも扱うまでになりました。現在では、イベント出店、料理教室の開催、地元企業のコラボ商品開発など活動の場を広げています。



朝礼から気合い十分でお客様をお待ちします



提供される料理はもはやプロの味
写真の「花御膳」は看板メニューです

③地域への成果や波及効果等

高校生たちの作るおいしい料理と、はつらつとした接客は、地域を元気にしています。

また、地元企業とのコラボ商品は現在27社37種となっており、地元企業やそれを購入するお客様に調理クラブ（食物調理科）の料理の技術力とブランド力とは高く評価されています。



県内のスーパーに並ぶコラボ商品

④前回受賞時からの活動の発展内容

平成20年9月からは、新たに相可高校食物調理科OBたちが中心となって運営する(株)相可フードネット「せんぱいの店」を開業し、まごの店同様料理に対する熱い思いをもち、確かな技術と熱意で挑戦を続けています。

また、食物調理科だけでなく、同校生産経済科の生徒たちも地元企業において商品開発に携わるなど、高校生から地域が元気をもらっています。

喜びの声



＜受賞者＞

三重県立相可高等学校
調理クラブ 部長 崎 楓真

＜コメント＞

調理クラブの活動は、料理教室や商品開発などありますが、それらの活動の中心には研修施設「まごの店」の運営があります。店では、日々、仲間と技術を高めあい、自分たちにできる最高の料理と最高の笑顔でお客様をお迎えさせていただいています。指導していただいている村林先生をはじめとする先生方、今に繋がる強い思いをもって料理と向き合った先輩方、応援してくださる地域の方々に感謝し、自分たちも日々精進し、よりこの多気町が元気な町になるよう、努力していきたいと思っています。

＜活動内容＞

「まごの店」での料理提供、運営

＜活動の経緯＞

平成 7 年 調理クラブ創部

平成17年 「まごの店」誕生

◆所在地：三重県多気郡多気町五桂956番地
五桂池ふるさと村内

◆活動主体：三重県立相可高等学校 調理クラブ

◆対象となる社会資本：五桂池ふるさと村
(高校生レストラン「まごの店」)

※管理者：多気町



平成18年度「手づくり郷土賞」
地域整備部門受賞

①社会資本の概要

浜松市の東部に位置する準用河川豊田川は、昭和40年代の土地改良事業により農業用排水路として整備されて以降、水辺に近づくことができなくなっていました。地域住民の「豊田川を昔の自然豊かな姿に甦らせたい」という強い思いから、平成14年度に一部区間において多自然川づくりに着手しました。事業の計画・設計段階から地域住民が参画し、整備完了後も清掃や除草等を行政と市民が協働して良好な河川環境が保たれています。自然豊かな姿を取り戻した豊田川に対する住民の愛着もますます高まり、幼稚園や小学校の総合環境学習の場のほか、桜の名所としても地域から愛されている川です。



豊田川



カルガモの親子も安心な環境

②取組の背景、取組概要と創意・工夫

「お一川・桜の水辺の会」が事務局となり、地域住民や幼稚園、小中学校の各PTA、地元企業などからなる団体を組織し、年間計画に基づいて各団体が主体的に活動しています。例年4月から10月までの間、月1回程度、年6～7回程度のペースで除草や清掃活動を行い、事務局は、各団体に作業の注意事項や指導を行いながら、安全管理にあたります。除草作業は通常、事務局及び有志（サポートメンバー）が事前に草刈機で除草を行い、各団体は集草、積込作業を行っています。また、平成22年度からは浜松東ライオンズクラブも活動に参加し、全ての団体を合わせると700名を超える市民活動にまで成長しました。その他、環境学習や地域住民が憩える場としての利活用以外にも、川に親しむ取組みとして7月には七タイイベントを開催し、多くの子どもたちが参加する地域の風物詩となっています。



清掃・集積作業



川の中の清掃

③地域への成果や波及効果等

「お一川・桜の水辺の会」事務局が川の勉強会を開催し、地域住民を対象に豊田川を取り巻く自然環境や歴史、多自然川づくりに対する理解を深めました。計画・設計にあたっては、ワークショップを通じて地域住民の意向や要望をとりまとめ、全員の合意で基本構想図を作成しています。施工に際しては、水辺の植栽等、安全な作業は地域住民の手で行うことで、地域で創り上げた川という誇りと愛着が生まれました。維持管理については、事務局と活動を実施する団体を明確化し、地域住民や子どもたちが主体性を持って活動できる体制づくりを目指しています。

維持管理については、事務局と活動を実施する団体を明確化し、地域住民や子どもたちが主体性を持って活動できる体制づくりを目指しています。手づくり郷土賞の受賞後、協力団体が増加し年6～7回の清掃活動に加えて、4月の花見や7月の七タイイベントを毎年開催しています。年間の参加人数は延べ700名を超え、優れた地域活動として広く知られるようになりました。また、豊田川の歴史や河川環境についての講師として、小学校での学習会や啓発も実施し、幅広い世代が協力して活動に取り組んでいます。河川環境が改善したことにより、散歩中に自らゴミ拾いをする住民も見受けられ、協力団体以外にも河川美化の意識が広く浸透しているといえます。このような川づくりを通して、世代間の交流や地域住民のコミュニケーションも活発になってきました。



「花見の設営」



「七タイイベント」



平成18年度「手づくり郷土賞」
地域整備部門

◆所在地：静岡県浜松市

◆活動主体：お一川・桜の水辺の会

◆対象となる社会資本：準用河川豊田川

※管理者：浜松市